

然らば英國の立憲的工場ではどんなことを考へて居るか云ふに  
レイノルドの工場などでは實に澤山なことをして居る。今レイノ  
ルド工場に就て云ふに

第一、生活賃銀の標準をして居る。之は英國政府戦時中凡ての機  
械工場に對して四箇月目に一回の生活程度を調査して、その標準  
によつて賃銀を定めることにしたので賃銀の計算が餘程六ヶ敷な  
つたので英國労働省では、二町四方にこの労働者生計調査委員  
を宿泊せしむる建築をしたといふのを見てもその大架梁なことが  
わかる。之はどうしても工場代議員の手を経ねばならなかつた。  
第二、は熟練賃銀の査定を工場代議員の手にかけた。之はチャア  
チル氏が軍需大臣であつた時に熟練工に一分二分半の増増を下附

する約束をした、之は時間の上で有つたが受取工は二割五分から  
三割三分方多く平素から儲けて居るといふので七分五厘しかつか  
なかつたがこの熟練程度がわからぬものだから、遂には機械工業  
全部のものがこの分増を受けることになつたが之も代議員の手に  
懸けた。

第三、は不熟練労働者の試験、労働條件をこの代議員に委託した。  
第四、時間の問題、遅刻と賃銀の問題をこの代議員によつて議せ  
しめた。

レイノルド氏は云ふて居る。この工場議員は労働組合が少數の熟  
練職工を代表して居るに反して、之は不熟練労働者全部を代表し  
て居るのだと。彼の工場では熟練工は僅かに五千人の中の五百人